

1) 「2024年問題」に関してお答え下さい。(213件回答)

	1.すでに大きな影響が出ている	2.多少の影響が出ている	3.今のところ全く影響がない	4.今後影響が出てきそう
建設	4	18	14	9
製造	1	13	11	7
流通・商業	0	11	15	9
サービス	6	12	65	12
農業	1	1	1	0

2) 「1.すでに大きな影響が出ている」「2.多少の影響が出ている」と答えた方の具体的な影響に関するコメント(業種毎)

建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入コスト高</li> <li>・残業時間上限規制を受けて、大型建築改修物件の人員配置人数を増員して対応している</li> <li>・費用の増大</li> <li>・生産性の低下</li> <li>・残業時間のオーバー</li> <li>・業務(労働力の減少)</li> <li>・部材単価アップ、様々な購入品の値段が上がっている。</li> <li>・安定的な業務量が減少している</li> <li>・運送費による仕入れコスト上昇</li> <li>・運賃コストの大幅な増加による、経費上昇。販売価格に転換できず。</li> <li>・従業員の離職を避ける為に、それなりの長い期間を考慮して従業員賃金の上昇を実施してきていたが、近年の各業種の物価上昇スピードが速過ぎる事から、今後の賃金等と、受注状況のバランスの取り方に大きな懸念を抱いている。</li> <li>・仕入れ運送の時間規制</li> <li>・運搬費の高騰、時間ロス</li> <li>・今までの2割5分減の労働時間で単価が上がらないので支払える給与が上がらないので新規入職者が来ない、休みが増えて給与が下がるので既存の職人の離職が止まらない、そもそも新しい経費枠が取れないので事業継承・教育が出来ないと言う事が加速度的に進んでいます。2乗と言っても過言じゃないスピード感です。</li> <li>・工期の長期化</li> <li>・大型建築改修物件への社員配置人数が増加した</li> <li>・運賃の増加</li> <li>・物価上昇</li> <li>・仕入価格・人件費の増大</li> </ul>
----	---

製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規住宅着工件数の減少</li> <li>・輸送費</li> <li>・運送費の値上がり</li> <li>・運賃の上昇。納入までの日数が多くなった</li> <li>・輸送費の値上がり幅が大きい、すべてを客先に転嫁できていない。</li> <li>・西日本エリアへの配達が一部断られている</li> <li>・物流費、建設コスト 増加</li> <li>・商品の運搬に苦勞し始めている</li> <li>・集荷の回数や量の調整など</li> <li>・コストアップ</li> <li>・外注配送経費の増加</li> <li>・運送費の値上がり</li> </ul>
流通・商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃の値上り</li> <li>・輸送の滞り・価格上昇</li> <li>・週休二日制の導入</li> <li>・物流に時間がかかるようになった。</li> <li>・仕入先からの運賃値上げ要請</li> <li>・物流費の上昇</li> <li>・運賃の値上り</li> <li>・賃金UPと言いながら働き方改革による残業時間削減。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年問題に対応した人材の確保のための人件費の増大</li> <li>・仕入れ（交通系）難。</li> <li>・宅配料金の高騰</li> <li>・物流業界の収益減が影響あり</li> <li>・取引先の売上高減少</li> <li>・商品の到達時間が遅くなる、運送金が高くなる</li> <li>・経費（仕入れ、販促費 送料 管理費）が上がっているがいまだ定価へ付加できない</li> <li>・取引会社の会社清算が起こっている</li> <li>・労働時間の制限による受注量の低下</li> <li>・仕入の高騰等 特に運搬費関係</li> <li>・輸送による納品遅れ</li> <li>・建築コスト・工期の悪化</li> <li>・業界全体としての職人不足</li> <li>・発送料金が高騰しても、受注価格等に反映しにくい。</li> <li>・輸送などで納期の遅れや価格のUP</li> <li>・人材不足による賃金上昇（残業代の増加）</li> </ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配送費が上昇傾向。輸送時間が昨年までより確実にかかるのでコールドチェーンのコストが増加傾向。</li> <li>・輸送困難を理由にした配送打ち切り、配送費高騰</li> </ul>